

フレッシュマンコース（2020年度 前学期）授業概要

フレッシュマンコース（FC）は、主に新生を対象とした集中講義です。このコースでは、次の2つのことを主な目的とします。第一に、研究者を目指すすべての人が身につけるべき技術・考えるべき問題を学ぶこと。第二に、総研大ならではの知的広がりに触れる中で、異なる分野の人とのつながりを築くこと。本コースは、「アカデミア探訪」、「研究者と社会」、「研究者のための“伝える”技術」の3つのセッションから構成されています。2019年度までは合宿形式の講義を葉山で実施していましたが、今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の収束の見通しが立たないため、従来の形式での開催は見送り、オンラインで実施します。

日時： 2020年10月2日（金）～10月9日（金）

対象者： ・2020年度前学期の入学生で日本語での受講希望者
 ・2019年度までに入学しFCを未受講の在学生在で日本語での受講希望者
 ※物理科学研究科、複合科学研究科（統計科学専攻の博士課程（3年次編入学）の学生を除く）、生命科学研究所、先導科学研究科は必修

使用言語： 日本語

単位： 2単位（授業すべてに出席し、課題を提出すること）



アカデミア探訪

総研大とその基盤機関で行われている研究活動の多様性と共通性に触れ、これから始まる研究生生活のイメージを膨らませるとともに、異分野の学生・教員との交流を深めます。

研究者と社会

ワークショップおよび講義を通じて、研究者の社会における責任について学び、討論します。

研究者のための“伝える”技術

講義と演習で、研究者に必要なライティングやプレゼンテーションの技術を学びます。

スケジュール

月日	時間	プログラム
10/2 (金)	13:00	開講挨拶
	13:10 - 18:00	アカデミア探訪 第1回
10/5 (月)	9:00 - 12:00	研究者と社会・多様な視点をもつ 第1回
	13:00 - 17:50	研究者と社会・研究者倫理
10/7 (水)	9:00 - 12:00	研究者のための“伝える”技術 第1回
10/8 (木)	9:00 - 12:00	研究者のための“伝える”技術 第2回
10/9 (金)	9:00 - 12:00	研究者と社会・研究の社会史
	13:00 - 14:30	研究者と社会・多様な視点をもつ 第2回
	14:40 - 15:00	アカデミア探訪 第2回
	15:00 - 15:10	諸連絡

アカデミア探訪

概要

総研大とその基盤機関では、豊富な研究材料と設備を活かし、さまざまな手法を駆使した研究が展開されています。研究の手法や対象は、研究の進展とともに広がりや深まりをみせ、研究分野の融合もしばしば起こります。あなたの研究テーマが将来、意外な共同研究に発展し、新しい分野を開拓するかもしれません。

「アカデミア探訪」では、総研大とその基盤機関で行われている研究活動の多様性と共通性に触れ、これから始まる研究生生活のイメージを膨らませるとともに、異分野の学生や教員との交流を深めます。

内容

異分野の受講生同士がお互いを知るための自己紹介のワークを行います。

様々なメディアにある多様な総研大の研究活動や研究生生活を探訪し、学内の多様な研究テーマと自らの関心を結びつけて考えるとともに、自身の研究の位置づけについて理解を深めます。

実施教員

眞山聡	教育開発センター	講師
小松睦美	教育開発センター	助教
伊東真知子	教育開発センター	助教
内川明佳	教育開発センター	助教

研究者と社会

概要

現代社会において、研究者は高度な専門性と共に社会への対応が求められています。とりわけ、近年は研究不正が大きな社会問題となり、研究者がふさわしい倫理規範をわかまえている事の必要性が高まっています。本セッションでは、単に研究者が従うべき倫理規範を教えるだけではなく、その背景となる研究と社会との関係についての理解を深めたうえで、研究者が社会において望ましい役割を果たし、研究者のコミュニティが健全に機能するために必要な倫理規範を洞察する能力の涵養を目指します。そのために、「研究者と社会」に関わる代表的な話題を踏まえたワークショップと講義を実施します。

内容

第一部：研究者倫理

研究活動はしばしば社会の支援に基づいてなされており、また研究結果は大きな社会的影響を持ちえます。そのため、研究者倫理の遵守は、研究者の社会的責任の重要な要素となっています。第一部では、グループワークと講義を通じて、研究者倫理に関する様々な話題について議論し、研究を行う上での基礎的な作法について学びます。

第二部：研究の社会史

研究者の社会的な役割と責任は、時代と共に変化し、現在あるのはそのような歴史的経緯の産物です。また、研究のもたらす長期的な影響を考えるのには、歴史を振り返ることが不可欠です。第二部では、研究者が職業として成立してきた過程、研究者と国家や産業との間で生じた関係の変化について学びます。特に 20 世紀の戦争を通じて顕在化してきた研究者の道徳的ジレンマや社会的責任に注目します。

第三部：多様な視点をもつ

現代の研究活動は、それをとりまく支援制度や地域からの理解といった基盤なしでは成り立ちません。同時に研究活動の成果は、時に社会や人々に深刻な影響を与えることがあります。そのために研究者は社会の様々な相手に対して、自らの研究に関する説明が求められるようになっていきます。その際、ステークホルダー（利害関係者）によって問題の捉え方が異なることがあります。第三部では、このような問題について、ワークショップと講義を通じて考えていきます。

実施教員

伊藤憲二 先導科学研究科 生命共生体進化学専攻 准教授

大西勇喜謙 先導科学研究科 生命共生体進化学専攻 助教

伊東真知子 教育開発センター 助教

標葉靖子・福山佑樹・江間有沙 (学外講師)

研究者のための“伝える”技術

概要

研究者にとって他者に自分の意見を解りやすく効果的に伝えることは、最も重要な行為のひとつです。この行為の善し悪しは、研究の進展やキャリアを左右することもままあります。意見を伝える方法には、主に書くこと（ライティング）と話すこと（プレゼンテーション）があります。これらは、スキルを学ぶことで格段に上達します。そこで本コースでは、まず文章の成り立ちの理解をしたうえで、実習を通して書かれたものを客観的に読み・推敲する「ライティング」の基礎を学びます。続く「プレゼンテーション」では、「伝えたいこと」をできるだけ多くの聴衆に伝え、フィードバックが得られやすくするための方法論を学びます。

内容

パート1：ライティング

講義：本講義では、説明することを目的とした「文章」の成り立ちを知ったうえで、文章を構成する「パラグラフ」の構造について理解します。文章の最小単位である「センテンス(文)」の推敲例を多く示しながら、「よいセンテンス」の要素について説明します。

パラグラフ添削：理解される文章を書くには、自分の書いたものを客観的に読み、推敲できることが求められる。そこで、実習では文章の構成単位である「パラグラフ」を対象に、文章を推敲する基礎的なスキルを学ぶ。パラグラフの構成を理解、様々な視点から推敲を重ねることの重要性を体感します。

「アウトライン」の作成：文章を作成するうえで、論理的な流れ「アウトライン」を最初に作ることは、最も大事な作業です。ここでは単文を使った練習問題を通じて、「アウトライン」とはなにかを学びます。

パート2：プレゼンテーション

プレゼンテーション（研究発表）とは、限られた時間の中で「絵」を使って聴衆に直接「話す」ことです。その目的は、自分の研究成果を伝えるだけでなく、その場で起こる議論を通じて聴衆から直接フィードバックを得ることにあります。研究発表の形式には、スライドを使った口頭発表とポスターを使った発表があります。そこで本講義では、まず口頭発表とポスター発表の特徴について説明します。続いて、聴衆が“わかる”発表を作ることを目指し、それぞれの発表形式ごとに「話の構造（アウトライン）」、「絵の作り方」その絵を使った「話し方」の基本的な技術を紹介します。

実施教員

印南秀樹	先導科学研究科	生命共生体進化学専攻	教授
木下充代	先導科学研究科	生命共生体進化学専攻	准教授
宅野将平	先導科学研究科	生命共生体進化学専攻	助教